

第17回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会
学校運営協議会制度の導入による「地域とともにある学校」づくりのための学校運営への効果を考える

ふるさと学習で育てる生徒の自尊感情と持続可能な地域連携体制の構築をめざして

中津市立本耶馬溪中学校 校長 小川邦夫

はじめに

本校は旧下毛郡の中山間地域に位置した全校生徒44人の小規模校である。20年前の市町村合併以来、生徒数の減少が顕著になっている。明るく素直な生徒が多く、あいさつをよくする。小規模校であるため、縦割りの活動が多く、どの学年も仲良く過ごす姿が見られる。一方で、生活面や学習面では個人差が大きく、支援を要する生徒が増えてきた。自己肯定感や自己有用感が低いため、学びに対する意欲が続かなかったり、人間関係がうまくいかなかったりすることがある。保護者や地域の方々が学校に寄せる期待は大きい。

青の洞門や羅漢寺など観光スポットが点在する本耶馬溪町は、毎年行楽シーズンには多くの観光客で賑わう地域である。しかし、町全体では少子高齢化が進むとともに、地域のつながりが薄れつつあるのが現状である。現在、町内は中津日田高規格道路が工事中で、昨年3月24日には「青の洞門・羅漢寺IC」が学校の隣に開通し、地域も大きく変わろうとしている。

本校の教育目標は、「地域を愛し 心豊かでたくましく ともに学ぼうとする生徒の育成」である。学校・家庭・地域が連携・協働して、地域の良さを知り、地域に貢献する生徒を育てるために全教職員で取組を進めている。

1 主題設定の理由

本報告は、「総合的な学習の時間」を核に探究的な学習として取り組んだ本校の「地域を知り、地域について考え、地域の魅力を発信する取り組み」をまとめたものである。総合的な学習の時間では、探究的な見方・考え方を働かせ、教科横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の生き方を考えながら、自分を取り巻く地域の課題を発見し解決していく資質・能力を育てることができると考える。

本校には、44年前から続く「クリーン本耶馬」という地域清掃活動と10年前から修学旅行先での地域の魅力を発信する「ふるさとPR隊」がある。

いずれも特別活動の中で行っていたが、年月を経る中で形骸化が課題になっていた。

3年前に教頭として着任して早々、形骸化していた地域学習について担当教員から相談を受けた。校長も交えて、話し合いをする中で、今ある活動を総合的な学習の時間に位置づけ、地域の教育資源をうまく活用しながら、「社会に開かれた教育課程」の視点でカリキュラムの見直しを行うことにした。

2 学校経営の視点

- (1) 地域社会と連携を通じた、ふるさとを愛する生徒の育成を図るための学校の体制づくり
- (2) 地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントのあり方

3 これまでの経緯と取組の方向性

(1) 総合的な学習の時間の課題

- ① 総合的な学習の時間は、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく探究的な学習活動が求められているにもかかわらず、本校のそれは、特別活動と関連させて体験活動を実施することに主眼が置かれていた。
- ② ふるさと学習の視点で総合的な学習の時間のカリキュラムを編成する際、他に取り入れたいキャリア教育等の学習活動をどのように位置づけるかが課題であった。また、実施方法の見直し、教員や生徒の多忙感にどのように対処していくかも課題であった。

(2) 手だて

- ① めざす生徒像の実現に向けて、校長のリーダーシップを発揮する。
- ② 社会に開かれた教育課程の実現に向けて、これまで行われてきた体験活動等に地域人材を活用したかたちで教科等横断的にカリキュラム編成し、系統立てる。
- ③ 地域とともにある学校づくりに向けて、学校運営協議会や校区ネットワーク会議で学

校の課題やめざす生徒像を共有し、地域の力を活用した授業改善を進める。

4 研究の実際

(1) 体制づくり

① 学校の体制づくり

組織としてのベクトルをそろえるために学校評価の4点セットを活用した。学校の教育目標実現のために喫緊の課題から重点的取組を決め、学校全体のベクトルを合わせて学校改革を行うものであるが、着任当初の本校生徒の喫緊の課題として挙げられたのは、「自己肯定感、自己有用感」の低さと生徒間の「学力格差」であった。

そこで、4点セットの重点目標として「自己肯定感の育成と課題対応力の向上」を位置づけ、重点的取組として「総合的な学習の時間に地域人材を活用することで成功体験を積み重ね、学びに向かう態度の育成を図る。」とした。地域社会の方々と触れ合い、地域に貢献する活動に実践することで、自分があてにされる存在であるという自己有用感を育てようと考えた。

教職員に対しては、目標管理の面談を活用して、総合的な学習の時間のカリキュラムづくりの指導助言と地域をつなぐコーディネートの育成を図った。

自己肯定感の育成と課題対応力の向上	学校	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習に地域人材を活用することで成功体験を積み重ね、学びに向かう態度の育成を図る。 ○地域人材を活用した学習を年間6回以上(学期に2回以上)実施する。
	家庭・地域	<ul style="list-style-type: none"> ○外部関係機関との連携による生徒の課題克服の支援を行う。 ○外部関係機関と連携してケース会議等を定期的に開催する。 ○毎月1回運営委員会の前にSC参加のいじめ不登校対策委員会を行う。 ○地域の子どもは地域で育てるという考えを広げ実践する。 ○学校、地域で行う行事や授業に積極的に参加し、本耶馬溪の伝統や文化を生徒に伝える。

② 地域とともにある学校体制づくり

本校は、町内小中学校3校による学校運営協議会を組織している。コミュニティスクールの教育目標として、「ふるさとに誇りを持ち、未来を切りひらく本耶馬溪っ子の育成」と設定し、家庭と地域、学校が協働して、子どもの学びに主体的にかかわっている。本校を取り巻く地域の特徴として、学校運営協議会と校区ネットワーク会議(なかつすくすくプロジェクト)、青少年健全育成会議が互いに連携しているため、地域の子どもは地域で育てるという意識を持ちやすい環境にある。校長としてこれらの会議に

出席して、学校の課題やめざす生徒像を共有し、地域の方々に学校の教育活動に対する協力要請を行った。

校区ネットワーク会議のコーディネーターである公民館館長とは月2~3回打ち合わせを行う。また、月1回の校区校長会には、本耶馬溪支所の地域振興課課長や主幹に出席してもらい、児童生徒の活動の支援をお願いした。



③ 卒業生による応援体制づくり

私自身が、本校の卒業生であり、また教諭として長く勤務した経験を生かして、同窓生や卒業生のネットワークづくりを行った。学校の取組を紹介して、学校の応援団として様々な活動に協力要請を行った。

(2) カリキュラムの見直し

昨年度改めて「地域を学び 地域と学び 地域に貢献する生徒を育成」する視点で、総合的な学習の時間のカリキュラムを見直した。目標を1年生では「地域を学び、地域の魅力を知ろう」として、地域の産業や事業所について学ぶ。支所長や商工会の方々の話を聞く機会を設ける。2年生では「地域の魅力を発信しよう」として、地域フィールドワークを行い、地域の歴史や文化、そこで暮らす人たちの思いを知り、修学旅行先で地域の魅力を発信するPR活動を行う。3年生では「地域の資源(魅力・特徴)をもとに、地域の将来について考え提言しよう」として、地域の活性化に向けた提言を行うことにした。さらに、2学期に縦割り班で「地域貢献活動」を位置づけ実施することにした。1年生から3年生の縦割りの班を作り、プロジェクトごとに3年生がリーダーとなり、地域に貢献する活動を地域・家庭と連携しながら行っている。

3年前の地域学習で、自分たちが考えた地域活性化プランについて地域の方々(支所長、自治会長、学校運営協議会委員等)に提言を行った。ここでは、提言内容について厳しい意見もいただき、その後の地域貢献活動に向けての課題設定にい

かすことができた。しかし、その年には、自分たちが考えた貢献活動を実行に移すところまではできなかった。一昨年度に改めて、地域が抱える課題を知るために情報を収集し、自分たちができる持続可能な活動は何か考え、地域貢献活動を実行に移していった。その様子は「おおいた教育の日」推進中津大会で「ふるさと魅力再発見」と題してステージ発表を行った。昨年度よりさらに内容を改善した地域貢献の活動を行っている。



(令和3年度)



(令和4年度)

(3) 地域力を活用した授業づくり

①地域貢献プロジェクト

職業人講話や職場体験、地域フィールドワークや聞き取り調査から、生徒自ら地域に貢献する活動を考え実施する。プロジェクトごとに縦割り班で取り組む。

(令和5年度)

- ・フォトプロップスづくり
- ・石ころアートづくり
- ・本耶馬溪町観光案内のCMづくり
- ・サイクリング休憩所の清掃・装飾づくり



(令和6年度)

- ・本耶馬溪町観光案内のCMづくり
- ・サイクリング休憩所の清掃・装飾づくり
- ・事業所の案内看板づくり
- ・大学生が考案した商品宣伝ポスターづくり



②清掃活動「クリーン本耶馬」

校区ネットワーク会議（すくすくプロジェクト）と連携し、活動の幅を広げる。保護者や地域の方々と一緒に観光地の清掃活動を行う。



③地域資源、地域人材を活用した教育活動

〈本耶馬溪支所地域振興課〉

校区校長会に地域振興課課長も出席し、生徒が町の観光イベントに参加する手立てを協議する。

- ・ネモフィラ栽培とキャラクター「ネモフィ」の考案
- ・観光イベント（観光どんど、ネモフィラフェスティバル、フォトコンテスト）へ参加



〈中津市教育委員会社会教育課〉

「不滅の福澤プロジェクト」に学年単位で参加する。

- ・ 1年 中津市歴史博物館、福澤旧居見学
～社会見学
- ・ 2年 中津藩蔵屋敷跡見学(福澤諭吉生誕地)
～修学旅行
→なかつ学びんびく「諭吉検定」に参加



〈観光ボランティアガイド〉

観光ボランティアガイドより地域の歴史や文化について学ぶ。

- ・ 歓迎遠足の競秀峰登山のガイド
- ・ 地域フィールドワークの講師
→修学旅行先での地域の魅力 PR 活動



〈商工会女性部・津軽三味線奏者〉

地域の盆踊り「耶馬溪ばやし」を復活させる。卒業生の和太鼓・津軽三味線奏者を招聘して、よさこいソーラン調にアレンジした曲で踊りを披露する。

- 文化祭や地域の観光イベント(観光どんど、ネモフィラフェスティバル)で披露



〈中津ケーブルネット〉僕

学校の教育活動取材してもらうとともに、観光CMづくりの技術指導を受ける。現在、隣の道の駅観光案内所で放映中である。



〈社会福祉協議会〉

学校菜園で野菜を栽培して、町内の高齢者施設に食材として提供する。



〈国土交通省〉

中津日田高規格道路インターチェンジ建設に際して、ペイントメッセージ制作、橋梁揮毫、ビデオメッセージ制作に参加する。



〈別府溝部学園短期大学〉

「おおいた地域連携プラットフォーム」の取組に参加し、大学生とともに地域の魅力を発表し、地域課題について意見交流を行う。



〈退職教員による学習塾の立ち上げ〉

校区ネットワーク会議（なかつつくすくプロジェクト事業）を活用して、退職した中学校・高校の教員がスタッフとなり、公民館を会場に学習塾「禅海塾」を立ち上げる。事務局は公民館長（地域学校協働活動推進員）が担う。学年の壁を取り払い、学び方の指導や補充学習を行う。



(4) 教育活動の成果を発信する

- ①「学びの Out Put」を位置づけた授業づくり
教科の単元計画に学習の成果を発信する活動を位置づける。学びの成果を外部団体のコンクール等に積極的に出品する。
- ②成果発表の機会を利用
研究指定の実践発表や各種募集を学習成果の発表の場ととらえ、生徒に意欲づけを行う。また、その場に地域の方や保護者を招待する。HP や通信、新聞投書で発信する。 等
 - ・大分っ子「未来創造プロジェクト」実践交流会
 - ・一人一台端末プレゼンテーションコンテスト
 - ・少年の主張大分県大会
 - ・新聞への投書 等



5 成果と課題

(1) 成果

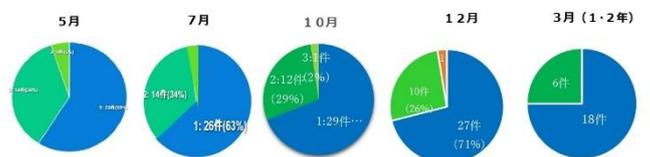
①生徒評価「地域のことを学ぶことで本耶馬溪が好きになった」と回答する生徒が5月92%（A評価46%）→3月100%（A評価75%）、「学校が楽しい」と回答する生徒が5月95%（A評価59%）→3月100%（A評価75%）であった。

地域貢献活動が地域の方や保護者から高く評価されている。様々な場での実践や活動の報告を行うことで生徒に自信が生まれ、自己有用感や自己肯定感を得た生徒が増えたと考えられる。

地域のことを学ぶことで、本耶馬溪が好きになった

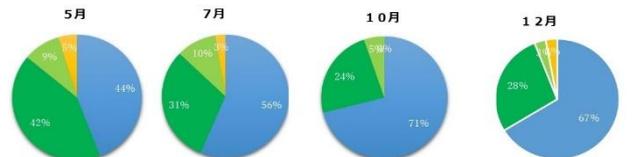


学校が楽しい。



(令和5年度)

地域のことを学ぶことで、本耶馬溪が好きになった。



学校が楽しい。



(令和6年度)

②縦割りの活動を取り入れることで、取組の中で課題を発見し、整理・分析を行うことができた。検証・改善を行い、次年度の活動につなげることができている。

③学校運営協議会や校区ネットワーク会議（すくすくプロジェクト）、健全育成会議と連携することで、学校の教育活動に協力してくれる地域の方々が増えた。また、卒業生からも協力依頼が増えた。教員の働き方改革にもつながっている。

- ・地元企業によるグラウンドの除草整備作業
- ・地元企業による備品の寄贈
- ・地域の防災士が防災教育（避難訓練）に参加
- ・読み聞かせグループが朝読書の時間に参加
- ・卒業生が部活動指導員として参加

- ・卒業生が職業人講話の講師として参加
- ・支所長による卒業証書の揮毫 等々



(2) 課題

- ①成果を継続させるためには、生徒の関心・意欲を引き出す継続的な働きかけが必要である。そのためには、教職員による探究的な学習活動の継続的な取り組みが必要である。校長には、人材育成を進めるとともに不断の教育課程を見直す視点や実施上の工夫（カリキュラム・マネジメント）が求められる。
- ②地域の協力を得ながら、活動を進めてきたが、活動には予算措置が欠かせない。地域や行政とより密接な連携が必要である。

③昨年前期のストレスチェックは72で、後期は75であった。今年度前期のストレスチェックは65であった。小規模校で校務分掌も多いため、教職員は仕事量が多いことに負担を感じている。しかし、その仕事量は自分でコントロールできると感じており、同僚や上司の支援も得られるとも回答している。教職員に過重な負担をかけずに家庭や地域の協力を得るためには、校長による積極的な働きかけが重要である。

おわりに

一昨年4月より校長として「地域とともにある学校づくり」をめざして、学校経営に取り組んできた。学校には自由になる「人」「もの」「金」が不足しているが、地域社会には多様なステークホルダーが多数存在している。この1年間、校長として、それらと上手くつながり、Win-Winの関係を築き、学校の教育活動に巻き込んでいくことを意識してきた。様々な方と交流する中で、地域の方の学校に対する期待は大きいことを感じる。また、校長のリーダーシップやマネジメント力、コーディネート力が重要だと感じている。今後は本町3校合同のコミュニティスクールを核にして、「社会に開かれた教育課程」を通じて、家庭や地域と持続的に連携・協働する体制を構築していきたい。



地域のよさを生かして地域の活性化に貢献

事業所・団体プロフィール

名 称：中津市立本耶馬溪中学校
住 所：中津市本耶馬溪町跡田212番地
代表者：校長 小川 邦夫

関係する県の施策

子どもの力と意欲を伸ばす
キャリア教育の推進事業
「大分っ子『未来創造プロジェクト』」

関連する
SDGs



具体的な取組

本耶馬溪町は、青の洞門や羅漢寺など歴史ある観光名所があり、春には青いネモフィラが咲き誇る。一方で、人口減少や高齢化、空き家の増加が進んでいる現状がある。そこで、町を活性化するにはどのような取組が必要なのかを考え、本耶馬溪支所や地域の商工会女性部などと連携しながら、全校生徒で地域貢献活動に取り組んでいる。

【特徴】

- 地域でのインタビューで集めた意見やフィールドワークで再発見した地域のよさから、自分達にできることを地域とともに考え、地域に貢献する活動を実施。
- ネモフィラ栽培、写真撮影用のフォトプロップス作成、休憩所の清掃、石ころアート・観光地紹介CMの作成と道の駅での展示・放映、やばないばやしの継承活動を実施。



地域とともに育つ

中津市本耶馬溪中

踊りを喜んでくれた

安部 幸子(3)年

私は本耶馬溪中学校で、さまざまな地域貢献活動に取り組みました。その中で印象に残り、達成感を味わったのは「踊り」です。地域貢献プロジェクトです。全校生徒が別班に活動し、私は「踊り」の班に所属しました。川で拾った石に絵を描くもので、石から題材を想像するのは難しかったです。完成した時は達成感がありました。

二つ目は「耶馬溪」です。初めて地域貢献の踊りを踊りました。ふろさことを大切にしたい。私たちがいる地域貢献活動に取組んでくれました。その活動によって本耶馬溪町の魅力を知り、学びたいと思うようになりました。私たちがしてきた活動を紹介します。一つ目は、地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

魅力や現状を発信したい。私は地域貢献プロジェクトや地域貢献プロジェクトなどに取組んでいます。活動を通して学びたいと思うようになりました。一つ目は地域の歴史です。住んでいる本耶馬溪町には青の洞門や耶馬溪橋、藤原寺など歴史のある場所が多くあります。藤原寺は、福沢諭吉が完成した時に建てられたことが知られています。昔の土地を買い、景観を守りたい。

私たちの声

地域とともに育つ

中津市本耶馬溪中

伝統を伝えていきたい

藤岡 瑛星(3)年

僕が地域貢献活動に取り組み始めたのが3つあります。一つ目は伝統です。それぞれの地域に伝統があります。それを伝えることができて、とても嬉しかったです。二つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

町に魅力を感じたい。私は地域貢献活動で学んだことがたくさんあります。一つ目は地域の歴史です。町商工会女性部の方々が踊っている「耶馬溪」を体育館の時間練習して、文化祭で披露しました。女性部のみなさんに教えてもらいました。二つ目は地域の歴史です。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

観光客に来てほしい。私は地域貢献プロジェクトでいろいろな場所に行きました。自然の美しさを知ることができました。活動を通して地域のためにできることを探していきたいです。

私たちの声

地域貢献プロジェクトでは、CMを作ったり、石ころアートなどに取組んでいます。たくさんの方々が来てほしいと思います。地域を学ぶことが、地域のためにできることだと思います。

地域とともに育つ

中津市本耶馬溪中

CMが完成し達成感

原 麻央(3)年

私が取り組んでいるのは地域貢献プロジェクトのCM作りです。地域貢献プロジェクトのCM作りです。自分たちで脚本、撮影、編集をしました。その過程で、撮影するのは大変でしたが、その分、完成した時はとても達成感がありました。これまでにないような場所に行き、町のことを真剣に考え、取り組んでいる人たちの姿を見ました。僕も小さなことでもいいから地域のためにできることを考えたいです。

町について真剣に考える。僕は今まで本耶馬溪で地域貢献活動に取り組んでいました。活動を通して地域を学ぶことができました。活動を通して地域を学ぶことができました。活動を通して地域を学ぶことができました。活動を通して地域を学ぶことができました。

私たちの声

地域とともに育つ

地元思い創意工夫

栗林 楓(3)年

私は地域貢献活動に取り組み始めたのが3つあります。一つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

活動通じ町を理解

井上 穂菜(3)年

本耶馬溪中の生徒がしてきた取り組みを紹介したいと思います。一つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

忘れられない古羅漢。僕は地域貢献活動に取り組み始めたのが3つあります。一つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

地域とともに育つ

中津市本耶馬溪中

CMが完成し達成感

原 麻央(3)年

私が取り組んでいるのは地域貢献プロジェクトのCM作りです。地域貢献プロジェクトのCM作りです。自分たちで脚本、撮影、編集をしました。その過程で、撮影するのは大変でしたが、その分、完成した時はとても達成感がありました。これまでにないような場所に行き、町のことを真剣に考え、取り組んでいる人たちの姿を見ました。僕も小さなことでもいいから地域のためにできることを考えたいです。

町について真剣に考える。僕は今まで本耶馬溪で地域貢献活動に取り組んでいました。活動を通して地域を学ぶことができました。活動を通して地域を学ぶことができました。活動を通して地域を学ぶことができました。活動を通して地域を学ぶことができました。

私たちの声

地域とともに育つ

地元思い創意工夫

栗林 楓(3)年

私は地域貢献活動に取り組み始めたのが3つあります。一つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

活動通じ町を理解

井上 穂菜(3)年

本耶馬溪中の生徒がしてきた取り組みを紹介したいと思います。一つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。

忘れられない古羅漢。僕は地域貢献活動に取り組み始めたのが3つあります。一つ目は地域貢献プロジェクトです。町のためにできることを生徒が考え、町をアピールするためのCM作り、石ころアートなどに生懸命に取り組んでいます。